

2023年3月12日 四旬節第三主日礼拝説教  
「二度と渴かないように」(ヨハネ4章7～26節)

○ヨハネ4章7～15節について

「イエスは答えて言われた。『この水を飲む者は、だれでもまた渴く。』」(13節)  
神の子イエスが、ユダヤからガリラヤへ旅をされていた時、井戸へ水を汲みに来た「サマリアの女」(7節)に、〈決して渴かない水〉があるので、その水を求めるよう教えられた。

\*渴く：①喉に潤いが無くなり、飲むものを心から求める。  
②満たされぬ思いを埋める何かを強く欲する。

今日のみことば：ヨハネ4章14節

「しかし、わたしが<sup>あた</sup>与<sup>みず</sup>える水を<sup>の</sup>飲<sup>もの</sup>む者は<sup>けつ</sup>決して<sup>かわ</sup>渴かない。」  
救い主イエスが、みことばと聖霊をとおして与えられる水はあなたの心を満たし、命の渴きを癒して虚しさも埋める。

「わたしが与える水はその人の内で泉となり、永遠の命に至る水がわき出る。」(14節)

☞聖き水は泉の如く枯れず、水を湧き出し続ける命がある。

○わたしたちが渴かないように(ヨハネ19章28節)

十字架による死が間近に迫ったとき、「イエスは、すべてのことが今や成し遂げられたのを知り、『渴く』と言われた」。

「わたしの与えるもので、あなたは渴かない」と仰られるキリストが、わたしたちのために、十字架の上で渴かれた。

※十字架につけられたイエスは、苦しみや痛み<sup>に</sup>吸<sup>い</sup>付<sup>く</sup>され、血の流れ尽した御体を<sup>な</sup>げ、<sup>あ</sup>激<sup>しい</sup>渴<sup>き</sup>のうちに<sup>た</sup>尊<sup>き</sup>〈いのち〉が<sup>と</sup>取<sup>ら</sup>れて<sup>い</sup>く。神は、この〈いのち〉を<sup>あ</sup>十<sup>字</sup>架<sup>の</sup>赦<sup>し</sup>を受け<sup>と</sup>る〈あなた〉に<sup>と</sup>与<sup>え</sup>られ<sup>続</sup>ける。

「主よ、(わたしが)渴くことがないように、また、ここにくみに来なくてもいいように、その水をください。」(4章15節)

心を満たす渴かない水は、キリストの御許にしかないので、わたしたちも十字架の赦しに望みをおきながら、「あなたの水を、あなたの〈いのち〉をください」と求めていこう。